

公益社団法人出水郡医師会
令和6年度 第11回定例理事会議事録

開催日時：令和7年2月10日（月）19:30～20:55

開催場所：出水郡医師会会議室

理事現在数及び定足数：現在数11名、定足数11名

出席者：理事8名

[本人出席] 黒木康文、中村直英、永松省三、新富義侯、辺木文平、内匠拓朗、
山本正昭、原 善根

[監事出席] 高野卓二

[事務部] 尾上博美、新藏光明、原田あかり

議 事：

〈報告事項〉

1. 会報編集委員会(1/6)
2. 令和6年度第2回出水市国民健康保険運営協議会(1/23)
3. 阿久根市地域ケア会議(1/27)
4. 准看護学校
5. 附属阿久根看護学校
6. 広域医療センター
7. 第二病院
8. 各支部報告
9. 県理事報告
10. その他

〈承認事項〉

1. 共催・後援依頼について
2. 令和7年度阿久根市保健事業計画の医師推薦について
3. 阿久根市育成医療に係る審査判定医の推薦について
4. 令和7年度「親子ふれあい健康教室」の実施について
5. その他

〈協議事項〉

1. 令和7年度当初予算（案）について
2. 令和7年度帯状疱疹ワクチン予防接種（定期接種）の接種費用について
3. 出水市自立支援医療（育成医療）審査判定医師の推薦について
4. 第33回北薩5医師会親善ゴルフ大会競技委員の推薦について
5. 感染症発生動向調査事業に係る指定届出機関の選定について
6. 学校腎臓検診について
7. その他

添付資料

資料1 広域医療センター運営状況報告

資料2 第二病院理事会報告

資料3 県理事報告

資料4 令和7年度阿久根市保健事業計画

資料5 令和7年度帯状疱疹ワクチン予防接種（定期接種）の接種費用

事前配布資料

令和7年度当初予算（案）

《報告事項》

1. 会報編集委員会 中村副会長

令和7年1月6日（月）医師会会議室で開催された。
新年号の校正及び春の編集方針について協議。春の巻頭言は、出水総合医療センターの花田院長にお願いすることとなった。表紙絵に関して内川先生よりご辞退の連絡があり、第二病院の田辺先生にお願いすることとなった。
2. 令和6年度第2回出水市国民健康保険運営協議会 山本理事
審議

令和7年1月23日（木）出水市役所401会議室で開催され、Webで参加した。

 - 1) 令和7年度国民健康保険税率等について

一人当たり103円増加、一世帯当たり161円増加するが、令和8年度以降は、保険税額が不足するので、基金より残高の取り崩しを行う。基金の残高は、8億1千2百万円あるが、今後足りなくなっていく可能性がある。
 - 2) 令和7年度国民健康保険特別会計予算（案）について

当初予算と比べて被保険者が減少しているので、保険収入が徐々に減少する。
 - 3) 保健事業について（令和5年度）

特定健診受診率が43.6%で、県内の市町村の平均が42%位なので大体同じ位である。保健指導が43%で他と同じ位であるが、受診率向上に向けて勧奨を行う。
 - 4) マイナ保険証の取り扱いについて（現状報告）

7月31日までは、現行の保険証が使えるが、8月1日以降は、マイナ保険証になる。資格確認証を申請する人は、前もって送る。
 - 5) その他
3. 阿久根市地域ケア会議 原理事

令和7年1月23日（木）風テラスあくね交流室で開催され、Webで参加した。

 - 議題
 - 1) 地域ケア会議（概要）について
 - 2) 地域包括支援センターの事業実施状況について
 - 3) 前回の地域ケア会議の継続課題について
 - 4) 地域ケア個別会議の実施状況について
 - 5) 阿久根市における地域課題の共有及び検討
 - 6) 令和7年度の地域ケア会議について
 - 7) その他

阿久根市における高齢者の現状や課題、支援状況の報告が行われた。

阿久根市では令和6年3月時点で1,674名の要介護認定者がおり、その内、軽度認定者（要支援、要介護1）が732名と43.7%を占めており上昇傾向とのことであった。コロナ流行後から増加しており、遠方からの家族からの支援を受けることが難しくなったり、地域の集まりが中止になったために活動量が低下したものと考えられるとのことであった。

継続課題のテーマにおいて、身寄りのいない高齢者が医療を受ける際の意思決定をどうしているか発言を求められた。過去に経験した、身寄りが全くいない症例で、緊急手術が必要で、仕方なく民生委員に術前IC、同意書の取得をしているケースをみたことがあることを説明した。

民生委員サイドからは本当は意思決定をしてはいけないものの、実際に行っているケースはあるとの発言があった。また、この責任の重さから民生委員の減少が起きているとのことであった。

4. 准看護学校

新 富 理 事

1) 二次入試について

2月1日（土）実施。1名受験し、1名合格。（現在7名入学予定）

2) 三次入試は、随時実施予定。

3) 令和6年度 第1回運営委員会について（2/6開催）

2年生 10名全員の卒業が承認された。

4) 令和7年度 成人看護 内分泌疾患 8時間分の講師が決まっていない。

令和6年度は、かじわら内科クリニックの梶原先生が講義してくださった。

しかし、訪問診療が増えたため、疾病のなりたち6時間分のみ継続で引き受けてもらった。

【今後の予定】

1) 2月13日（水）鹿児島県准看護師試験 試験会場：鹿児島大学

2) 2月17日（月）～3月7日（金）基礎看護実習II 1年生（広域医療センター）

3) 2月25日（火）新入生登校日（13:30～）実習衣採寸など。

4) 2月27日（水）献血

5) 3月5日（水）第60回卒業式（鶴丸会館で14時～）

6) 3月14日（金）鹿児島県准看護師資格試験 合否発表 10:00～

7) 3月24日（月）新入生登校日（13:30～）物品販売など

学生数（令和7年2月1日現在）

	1年生	2年生	合計
学生数	8名	10名	18名

沖縄県では、准看護学校の制度を知らないらしく、出水准看護学校も含めて、全国的に医師会立の准看護学校があることの周知を沖縄県医師会にお願いしてある。

5. 附属阿久根看護学校

内 匠 理 事

1) R7.1月

1月14日（火）基礎実習開始（29日終了）

1月16日（木）一般入学試験 応募者数5名（女性4名、男性1名）

学校別 出水准看護学校 3名、人吉球磨看護学院 1名

天草准看護高等専修学校 1名

1月27日（月）第3回運営・卒業・入試判定会議

（報告事項） 1. 学生の状況について

2. 令和7年度一般入学試験応募者等の状況について

3. 学生募集について（二次・三次・四次）

4. 第114階看護師国家試験について

5. その他 1) 教務主任養成講習会受講報告

2) 鹿児島県専任教員養成講習会受講報告

（協議事項） 1. 31期生の卒業判定について

2. 一般入学試験合否判定について

3. 令和7年度予算について

4. 転入学の選考方法と入学料について

5. その他

1月 29 日(水) 一般入学試験合格発表日

2) 今後の予定について

2月 15 日(土) 一般入学試験(二次) 応募者 1名 (2/4 現在)

2月 16 日(日) 第 114 回看護師国家試験 会場 福岡女学院大学

受験人数 11名 (3年生 8名、卒業生 3名)

2月 28 日(金) 令和 6 年度講師会議 1回目 14:00~15:00 2回目 15:10~16:10

3月 4 日(火) 令和 6 年度卒業式 広域医療センター4階大ホール 14:00~

3月 8 日(土) 一般入学試験(三次)

3月 22 日(土) 一般入学試験(四次)

3月 24 日(月) 看護師国家試験合格発表日 午後 2 時より

3) 学生の状況(2月 1 日時点)

	1年生	2年生	3年生	合計
学生数	15名 (内 休学者 1名)	11名 (内 休学者 1名)	9名 (内 科目履修生 1名)	35名 (内 休学者 1名) (内 科目履修生 1名)

4) その他

2025 年度入学者数(2月 10 日時点)

① 推薦・社会人合格者 計 8 名 (推薦 5 名、社会人 3 名)

② 一般入学合格者 計 5 名

合計 (①+②) 13 名

6. 広域医療センター

内 匠 理 事

別添 [資料 1] 参照

1) 1月の状況について

外来患者平均 141 人/日、入院患者については、一般病棟平均 112 人/日、回復リハ病棟 平均 30 人/日、地域包括ケア病棟 平均 26 人/日、緩和ケア病棟 平均 4 人/日の合計 172 人/日で前月より 10 名増、手術件数 91 件で前月より 10 件減であった。

1月の診療実績は、請求事務作業中であるが概算で外来 83,143 千円、入院 319,199 千円で、合計 402,343 千円となり前月約 18,000 千円の増収となる見込みである。

特別・個室利用状況は 68.3% の利用率であった。

また、急性期一般入院基本料 2 の要件

- 平均在院日数 14.0 日(21 日以内)
- 重症度、医療・看護必要度 26.4% (21%以上)

7. 第二病院

朝 倉 理 事

別添 [資料 2] 参照

1月の平均患者数は、医療病棟 51.6 人(稼働率 90.5%)、介護医療院 66.7 人(稼働率 95.3%) になっており、全患者数は 118.4 人(稼働率 93.2%) で推移した。

また、延べ患者数は医療病棟で 1,600 人(前月対比 101.3%)、介護医療院で 2,069 人(前月対比 98.3%) になった。

診療報酬は、概算で医療病棟で 36,257 千円、介護医療院で約 37,415 千円、合計 73,672 千円(前月対比 100.3%) であった。

1月はインフルエンザの蔓延後、コロナ陽性者も発生し病床運営に苦慮した。特に介護医療院では、前月より延べ人数が少なく、診療介護報酬の総計も前月並みとなった。

8. 各支部報告

山本理事
原理事

出水支部：理事会報告を行った。検死医について協議がなされた。これまでの話合で方向性が決まりつつある。まず、かかりつけ医の主治医が対応する。一部の先生方に負担がかからないように全医療機関で輪番制の当番制でやってはどうか。検死医業務に不慣れな先生方の為に來仙先生が検死の手順書とか、遺体検案書の手順の作成をお願いする。検死に関連のない小児科の先生等の診療科の取扱いについては、今後検討していく。

阿久根・ 理事会報告を行った。令和7年度阿久根市保健事業計画の医師推薦に
長島支部：について協議がなされた。

9. 県理事報告

黒木県理事

別添〔資料3〕参照

1) 医療介護確保基金

県行政に要望書を提出したが市町村にも要望書を提出してほしい。

2) 初期臨床研修について（別添参照）

全体で84名と昨年より10名減

2年連続で100名を下回っている。処遇改善と現状の問題点を分析する。

3) 男女共同参画委員会

医師会入会数を上げるために会費免除を行うように要望あり。

4) JMAT研修（別添参照）

災害時のCSCAの体制が重要であり各自準備してほしい。

5) 社会保険委員会（別添参照）

6) 九州ブロック災害医療（別添参照）

10. その他

1) 会員の異動について（令和7年2月1日付）

氏名	会員種別	支部	医療機関	異動内容
ふくだ まさたか 福田 雅隆	A1	出水支部	福田クリニック	医療法人野島会へ法人化

《承認事項》

1. 後援依頼について

- かかりつけ医認知症対応力フォローアップ研修会（主催：莊記念病院認知症医療センター）

日程	令和6年3月27日（木）18:30～19:30
会場	出水郡医師会立第二病院
内容	講演：「認知症になつても、自分らしく尊厳をもつて生きるために」 講師：莊記念病院認知症医療センター 医師上妻 博文先生

承認。

2. 令和7年度阿久根市保健事業計画の医師推薦について

別添〔資料4〕参照

標記の件、阿久根市より医師の推薦依頼があり、1月の支部会で協議の結果、別紙の通り推薦することで、決まりましたので、ご承認頂きたい。

承認。

3. 阿久根市育成医療に係る審査判定医の推薦について

標記の件、阿久根市より任期満了に伴う、推薦依頼が来ており、現委員のしみずこども医院院長の清水貴士先生にお願いして、ご快諾を頂いておりますので、ご承認頂きたい。

承認。

4. 令和7年度「親子ふれあい健康教室」の実施について

標記の件、2市1町の教育委員会に希望を伺ったところ、出水市教育委員会より米ノ津東小学校と蕨島小学校の両校と長島町教育委員会より蔵之元小学校の1校より希望の申し出がありました。平成30年度蕨島小学校、令和2年度上場小学校、令和6年度出水小学校と出水市の小学校で行ったので、令和7年度は、長島町の蔵之元小学校で行いたいので、ご承認頂きたい。なお、阿久根市は回答期限までに回答なし。

蔵之元小学校で行うことで承認。

5. その他

《協議事項》

1. 令和7年度当初予算（案）について

事前配布資料参照

令和7年度予算（案）について広域医療センター及び第二病院の担当者より説明を行い、その他と全体の対策等は税理士法人メディカルビジネスの小林税理士より行う。

それでは、法人会計部の尾原より公益社団法人出水郡医師会の令和7年度予算（案）についてご説明いたします。本日は事業規模の大きい広域医療センター、第二病院の令和7年度当初予算（案）及び資金調達及び設備投資の見込についてご説明させていただき、最後に税理士法人メディカルビジネスより法人全体の予算内容についてご説明頂きます。

資料はA4縦の表紙の協議事項1、公益社団法人出水郡医師会 令和7年度当初予算（案）で、県へ提出する公益法人用の収支予算書（案）になります。まず、1頁をご覧ください。表の見方ですが、1番左に勘定科目、その右の合計欄は法人全体の合計額になります。そしてその右側、水色部分が公益事業、黄色部分が収益事業等、緑の部分が法人会計で1番右が内部取引等消去となっています。それぞれの事業の下に、病院・学校等が事業所毎に分類されています。それでは単位は百万円単位で中科目を中心に主な点についてご説明いたします。最初に水色部分の広域医療センター公益事業についてですが、上から4番目の青マーカー、事業収益の予算額は47億4千1百万円です。前年度当初予算との比較では2億9千6百万円の増額になります。主なものは、入院診療収益と外来診療収益になりますが、事業計画に基づき積算したもので、入院診療収益では

前年度当初予算より2億7千7百万円の増額、外来診療収益は前年度なみとなっております。また令和7年度は阿久根市より病児保育事業を受託する予定で、事業収益の1番下の、その他受託収益で1千7百万円を見込んでおります。次にその下の青マーカーの受取補助金等は1億7千4百万円で、主なものは阿久根市からの公的病院運営費補助金1億3千2百万円を見込んでおります。そして中ほどに青マーカー経常収益計は49億3千7百万円となり、前年度当初予算より約4億円の増額です。

一方、その下の(2)経常費用ですが、まず材料費は全体で11億1千5百万円を見込んでおります。材料費の積算に関しても、事業計画に基づき医業収益に対する構成比率で積算しており、材料費の構成比率は令和6年度10月末の実績に合わせて全体で23.1%を見込んでおります。その下の青マーカーの人件費については、ベースアップ評価料算定の条件である2%のベースアップと、例年2号俸のところ、1号俸の定期昇給で、総額27億8千2百万円を見込んでおります。前年度当初予算より約1億8千万円の増額で、医療収益に対する構成比率は57.9%です。その下の青マーカーの委託費は4億6千4百万円で、2項目1番上の青マーカーのところですが設備関係費5億4千9百万円、研究研修費1千3百万円、その他経費を加えた、経常費用計が3頁になります。1番目の青マーカーのところ、52億4千2百万円で、前年度当初予算より3億6百万円の増額です。結果、その下の青マーカー当期経常増減額は3億4百万円のマイナスとなりました。

次に1頁に戻っていただいて、真ん中の収益事業等の部分ですが、広域医療センターには売店家賃と収益その他として、差額ベッド、保育所事業があります。売店家賃・収益その他(広域)の列を縦にご覧いただきますと、青マーカーの4番目の事業収益は1億百万円で、主なものはその2行下に室料差額収益 1億21万円を見込んでおります。そして経常費用では、人件費1千5百万円、委託費2百万円、2頁の設備関係費1千6百万円等で、3頁の1番上の青マーカーの経常費用は、5千百万円を見込んでおります。結果2行下の当期経常増減額は、6千6百万円のプラスとなりました。また法人会計(広域)に関しましては法人管理費や、公益事業、収益事業に該当しない経費で、主なものは関連大学医局への寄付金等で1千7百万円を見込み、その財源は収益事業等からの繰り入れを同額見込んでおります。結果、令和7年度広域医療センターの経常収益計は50億5千5百万円、経常費用計53億1千万円、差引経常増減額はマイナス2億5千5百万円の予算案となります。

続きまして、第二病院飛松事務長より第二病院の令和7年度当初収支予算書(案)についてご説明いたします。黄色部分の収益事業の一番左側になります。単位は円となっておりますが、十万単位で中科目を中心に主な点についてご説明いたします。

先ず、上から4番目の青マーカー、事業収益の次期予算額は887,300千円、月平均73,900千円です。増減額は33,700千円の減額です。主なものは、入院診療収益が6,800千円の増額、介護医療院介護料収益が42,500千円の減額、その後の利用者等利用料収益が1,900千円の増額です。介護医療院介護料収益の当年度予算額につきましては、一部科目を重複して計上してきていたことが判明した分の額になります。積算内容につきましては4月から10月までの実績に基づき、3F医療病棟を稼働率95%、介護医療院は稼働率98%を見込んで積算しています。また、続きます青マーカー受取補助金、雑収益を加えた経常収益計は900,400千円で当年度予算額より31,400千円の減額となります。

一方、その下の経常費用ですが、事業費の合計は918,100千円で増減額は8,600千円の増額です。

内訳では材料費で医薬品費、医療材料費等合計で53,300千円を見込んでおります。材料費の積算に関しては、入院診療収益と介護医療院介護料収益及び利用者等利用料収益に対する構成比率で積算しております。材料費全体の構成比率は5.8%です。その後の人件費は2%のベースアップと1号俸の定期昇給を行い、総額651,800千

円を見込んでいます。増減額は15,200千円の増額で、経常収益に対する構成比率は72.4%です。給与費においては6,500千円の増額ですが退職給付費用が12,900千円増額しており、人件費の比率を押し上げる要因のひとつとなっております。その下の青マーカー委託費は100,700千円で1,000千円の減額です。2ページに移りまして、設備関係費は51,400円。増減額は4,400千円の増額です。開院以来25年が経過し、建物設備等その他器具機械の経年劣化で、修繕費が3,900千円増額を見込んでいることが増額の一番の要因です。その下の青マーカー研究研修費から下に続く一般経費の合計は59,500千円で1,800千円の増額です。従いまして次の3ページに移りまして経常費用計は918,100千円となり増減額は8,200千円の増額です。従いましてその3行下の当期経常増減額は17,700千円のマイナスで、増減額は39,700千円の減額となる予算（案）です。

以上で第二病院令和7年度当初収支予算書案の説明を終わります。

最後に4頁の「資金調達及び設備投資の見込みについて」をご覧ください。当初は広域医療センターの電子カルテ更新費用で5億円を見込んでおりましたが、ベンダー側の都合により令和8年度以降に先送りすることになっております。表の下に事業別・科目別の集計がありますが、老朽化した施設・医療器械等の更新で約1億8千6百万円を予定しております。事業所別の内訳については5頁に、除却資産を含め、記載してございます。これらの設備投資に関しましては経営状況を見据え、優先順位をつけ収支状況をみながら更新を検討することにしております。なお長期借入の予定はございません。

以上で、広域医療センター、第二病院当初予算案、資金調達及び設備投資の見込みについての説明を終わります。次に税理士法人メディカルビジネスよりご説明よろしくお願いいたします。

続きまして、看護学校と准看護学校の予算（案）について税理士法人メディカルビジネスの小林税理士より説明を行う。

看護学校は経常収益7年度当初予算4,100万円、6年度当初予算3,700万円で約400万円の増収を見込んでいます。経常費用は3頁の中段にあります8,400万円、昨年度は1億200万円でした。人件費の減があり1,800万円の費用減少を見込んでいます。その結果当期経常増減額はマイナス4,300万円です。昨年度はマイナス6,500万円経常増減額でしたので、マイナス幅が2,200万円減少です。

次に准看護学校の7年度予算を説明します。経常収益は1頁の中段1,600万円でほぼ昨年度と同じ経常収益見込みです。それに対し経常費用は3頁の中段5,200万円で昨年度の6,100万円から職員退職に伴う人件費の減を900万円見込んでいます。その結果、当期経常増減額はマイナス3,600万円で、昨年度マイナス4,400万円のマイナス額を800万円減少見込みです。

医師会事務室は、会費収入の減少があり経常収益は3,600万円に対し、経常費用は昨年度並みの6,600万円です。

その結果経常増減額はマイナス3,200万円で6年度のマイナス2,900万円から300万円のマイナス額が多くなっています。

医師会事務室分は公益事業、収益事業等、法人会計の各区分にまたがっています。

医師会全体の経常収益は、1頁の左側中段の60億4,100万円、経常費用は3頁上段の64億2,600万円で、その差額は当期経常増減額マイナス3億8,400万円です。

今回はプロジェクトを使って出水郡医師会全体の予算とその対策について説明します。

予算の説明をするうえで4つ資料を作成してきました。まずローマ数字Iで医師会全体の予算の報告、次のその予算で公益法人の基準を満たすかを軽く見ていく、IIIで予算上の損益が資金に落とし込むとどのようになるかを示し、最後に経常収益をどのくらい増やせばいいのかを見ていきたいと思います。

それでは医師会全体の予算からです。

医師会全体の予算上の最終損益は、先ほど説明したようにマイナス3億8,400万円なっております。大きなマイナス額で心配されるかもしれません、その対策につきましては後ほど説明したいと思います。

事業所別正味財産予算を事業別正味財産予算に組み替えると下の表になり、最終損益も変化なくマイナス3億8,400万円です。

公益法人財務三基準にあてはめてみると、収支相償を含めて全部満たします。

この3億8,000万円マイナスという数字は、あくまで予算上の損益の金額です。このマイナスが資金にどのように影響を与えるかを見ていきます。

まず先ほどの経常損益マイナス3億8,000万円について、これにお金の出ない費用である減価償却費や引当金繰入額を足します。

次にお金は出るが損益計算上費用にならない借入金の返済や退職金の支払を加え、あとはその他のものを加味するとキャッシュフローが1年で3億6,000万円目減りするという予算編成となっております。たまたま損益のマイナスの数字と近いものになっていますが、設備投資額を全額現金で購入した場合にはキャッシュが不足する金額です。この表を見ていただくとやはりお金を生み出す源泉は利益であることがわかると思います。いつも利益、利益と言っておりますが、資金繰りには利益の確保が大事だとする理由がここにあります。

当たり前ですが、赤字は自己資金を減少させます。

この予算で設備投資を現金購入すると7年度期末には16億円あったお金が12億円に減ってしまいます。

この資金不足3億6,000万円を解消するためには①収益を上げる②痛みを伴う固定費の削減をする③設備投資も優先順位をきちんとつけ、絶対いま必要なもののみに絞り再検討を図り、資金は今まで貯めた自己資金を取り崩すか、金利は上昇傾向ではありませんが銀行からの借入を行うかということになります。

では、この赤字を埋めるためには、医師会全体としていくらままで経常収益が必要になるかを見ていきます。まず損益分岐点図表に予算上の固定費48億3,100万円と経常収益の線を引き、これに経常収益に26.4%比例して増える変動費を乗せ、赤い線と青い線が交わった点が損益分岐点となります。その額は65億6,200円となります。予算の経常収益は60億4,100万円ですので、不足している経常収益は5億2,100万円で、一ヶ月当たりの不足額は4,300万円になります。この赤字を全て経常収益で埋めることはかなりハードルが高いと思われます。

そこでこの表に戻っていただきまして、割り切って、医師会は公益法人なので損益よりも資金が回れば最低大丈夫と考えて、取りあえず設備投資に関しましては、本当に必要なものであれば割賦やリースもしくは銀行借入を活用します。

絶対に支払わなければならないその他までのマイナス1億3,300万円を医師会全体で埋めるとします。その場合の資金的分岐点となる経常収益がどこにあるか計算します。先ほどの予算上の固定費を資金ベースに引きなおした金額が45億7,900万円となり、同じように計算すると分岐点は62億2,100万円となり、足りない経常収益も1億8,000万円まで減り、一ヶ月当たりに直すと1,500万円となります。

常勤換算職員約500名ですので一人当たり1日1,000円収益アップを行うと1ヶ月1,500万円になり、この金額目標であれば実現性のある目標と考えます。もちろんこの金額を売上だけでカバーするのではなく引き続き固定費の削減に取り組んでいただけたらと考えます。

以上、説明を終わります。

(黒木副会長) ありがとうございました。何かご質問ございませんか。

(永松理事) 突然なぜ、こんな話が出たのか。

- (小林税理士) 突然というか、いつも赤字赤字と話をして赤字を解消しなければ、資金が足りなくなる。それがベースではあるが、そうならないようにするためにはどうしたらいいかという開き直りの考え方である。
- (永松理事) 要するにこういう手しかないんだよということですか。
- (小林税理士) やれるところは、ここからかなということである。
- (永松理事) いつも思うんだけどこの病院だけではなくて、全国の病院がかなり苦しいという話が伝わってくるが、そういうところも似たような発想になってきているのか。
- (小林税理士) まあそうですね。まずは資金を回す。回さなければアウトになる。損益よりも資金を回すためにどういう対策を行うかが次の段階である。
- (黒木副会長) 大体同じ位の中規模の公立病院の一般会計下の繰入は、県立病院を含めて、大体この額である。鹿児島市立病院は、36億円位繰入れた。規模がでかいから。だから規模をでかくしても赤字がでかくなるだけである。売上を挙げても、月々4千3百万円上げるとした時に、損益分岐点まで上げる時に。
- (内匠理事) 資金ベースのグラフの固定費を下げると損益分岐点がずれてくる。材料費が下がれば経常費用も下がる。そうゆう今できることをやっている。
- (黒木副会長) 皆さんご存じだと思いますけど第二病院と広域医療センター外の事務室とか、看護学校と保育所を全部入れたものなので、看護学校を上げても5千万円まではいかない。そのあたりをやると少し違ってくる。その他の5千万円の支出の内容が何か。
- (牟田さん) 奨学金とか諸々のものです。
- (黒木副会長) 大学医局への払うお金とかか。
- (牟田さん) 医局への寄付金です。看護学校や薬剤師等の奨学金等、ちょっとしたのが重なっている。
- (小林税理士) 大きな展開があれば別であるが、今の流れでいくとこうなる。看護学校を辞めたらどうなるのか等は入っていない。
- (黒木副会長) わかりました。
- (新富理事) 16億円が来年には、12億円に減るということか。
- (小林税理士) そうですね。設備投資を現金で買った場合ですが。
- (黒木副会長) 計画通りに買った時である。
- (小林税理士) そこは、分割にしたり方法がある。
- (黒木副会長) これがある正確な予算（案）である。これを黒字予算（案）はいくらでも作れる。計算上は。古郷先生が会長の時に「きちんと現状を出せ。」ということでこういう予算組をしている。その予算組の中できちっと対策をとらないとこうなる。
- (永松理事) 税理士としてはどう考えているのか。
- (黒木副会長) 提案である。手としては、先程言われたとおり月に1千5百万円位の利益を上げる方法でやっていって1日50万円。
- (小林税理士) 年間1億8千万円、月1千5百万円です。
- (黒木副会長) どうにか振り絞るか。予算をどこから引っ張ってくるか。借り入れはこれ以上は、出来ることは出来るがどんどん広がるだけである。40億円だったか。
- (牟田さん) 総額42億円です。買掛金等も含めてですが。
- (内匠理事) 設備が予定外でも老朽化しているところが出る、これ以上に出る可能性がある。
- (黒木副会長) 良かったねソーラーシステムを作らなくて。会費を上げるか。
- (黒木副会長) 第二病院を建てる際も助成金を集めた。

(黒木副会長) 小児科や産婦人科の先生方の後方支援病院としての役目がちゃんと出来ているかは別にして、広域医療センターが無くなつた時を考えるとウルトラQで持ってこないといけない。同じ規模の中小病院は、全国の医師会病院は、同じである。同じ問題を同じように抱えていて、ただそれでいいかというと良くないので、公設民営とかそちらに流れてとか、地域連携法人を作っている。地域連携法人を作つても単体の赤字幅が下がるわけではない。そこで予算分配とかしても、せいぜい薬剤の購入とか検査の材料費の購入を一括にして分配する位のものだからそれほど変わらない。日本医師会としては、元々の診療報酬費をどうにかして上げて、物価高に対する予算組をしてもらおうとしている。その物価高に対するものも今年の経費に入つてゐるのか。物価高騰に関する経費は。

(小林税理士) 予算の費用の中に入つてゐる。

(黒木副会長) 国の交付金は、めちゃ少ない。介護人材確保は、16億円位ついているのに物価高騰は、5億円位しか付いていない。全体で。いくら来た。物価高騰の補助金は。

(尾上部長) 何十万円か。

(黒木副会長) 何十万円かでしょ。広域で。診療所は、十何万円位だった。

(永松理事) 数字が出てゐるのなら、それを達成するために何か、ちゃんとしないといけないでしょ。何らかの目標を立てて、方向性なり。

(黒木副会長) そこを先生方に考えて頂きたい。

(永松理事) 素人ばっかりじゃん。もう少しプロの意見も入れて。

(黒木副会長) コンサルタントを前入れたが何にもならなかつた。

(永松理事) 確かにそうでした。

(山本理事) ある程度、広域医療センターの大まかな収益はわかるが、各診療科によつての収益の上がり方とか、医者の人数とか、看護師の具合とか入れて、どこが黒字部門で、赤字部門かというのを具体的に出していいかないと何を変えていいか分からぬ。

(新富理事) おっしゃるとおり。

(尾上部長) 原価計算して診療科別に出しているが、関係ない共通部分の方が多すぎて結局、マイナスになる。外来は、全部マイナス、入院のプラスの部分で外来の赤字を消している。それに波があつて毎月々で患者数や実績で変わつてくる。固定費が多いのが影響しているので、そこを何とかするしかない。今、院長の方では、病床を削減して点数を取れる部分とか、固定費を減らすため人員を採用しないとかという方向で進めている。

(新富理事) もう限界でしょうね。

(内匠理事) 緊急支援パッケイジのまだ、詳細は分からぬが、1床削減で410万円でするので、実際入院が190床も入らないので、今222床を199床にしてしまうと8千万円から9千万円位一時的ではあるが。それによって看護師の数が退職されても同じ数を採用しなくてもすみ、人件費を抑えられる。一番売り上げが多いのが、整形外科でコストがどれ位かかっているかは厳密には難しいが、ドクターの数が今より少なくなると当直とかが人数で時間外の80時間が厳しくなつてくる。うちの循環器も5人で売り上げは、カテも減つて多くはないというところが実際あるが、人が減つてくると当直・日直がかなり厳しくなつてくる。今がぎりぎり限界である。これが実情である。

(山本理事) 僕たちは、外来しかしていないが、なぜ外来全部赤字になるのか。

(尾上部長) 診療科だけに係つて分だけではマイナスにならない。関係ない部門の経費・人件費等が按分されていくので、元々赤字なので、その分が振られ

ていくと外来全て赤字になる。

(黒木副会長) いわゆる外来の事務費用とか、その中に電カルやその他の費用が入ってくる。

(尾上部長) 全てのものが按分されてしまつていい。

(黒木副会長) 外来をそれ以上上げればいいが、限界である。

(山本理事) 外来を一生懸命やって頂いているが、何で赤字になるのかなと思って。

(黒木副会長) 病院の全体の経費の中に按分してあるから、元々の経費がでかい。病院の外来機能を維持するために経費が掛かっているから、今の診療報酬だと外来で稼いでも病院全体の経費を賄い切らない。

(永松理事) 数が圧倒的に少ないでしょ。一般の我々が診ている数からしたら。

(黒木副会長) 外来は平均20人。何人だ。

(尾上部長) 歴日数で割った時に1日140人位である。

(黒木副会長) 140人を8科位で診ている。

(永松理事) 大学とかも一人二人とチームで診ても、1日10人か20人でいっぱいである。だから外来で上がるってゆうのはあり得ない。

(黒木副会長) 先生は、大学いる時に一日に何人位診ていましたか。

(山本理事) 5・6人かな。外来が週3回で午後からは病棟とか手術だった。

(黒木副会長) 個人医院ベースで一日70・80人から100人外来が来るが、それを広域の一人の先生が診るのはたぶん無理である。

(中村副会長) 逆にそういう患者をいっぱい診るのって非効率だと思う。外来の売り上げは、病院全体で4億円あって、7・8千万円で抗がん剤の費用とかも入って、僕等がいた頃は、5千万円位だった。その時、實先生に言われていたのが、外来をどんなに頑張って、マンパワー使って5千万円しか上がらないから、外来をいくら頑張ってもしょうがないからどんどん紹介で返して患者の数は少なくともいいから、紹介してもらって検査をしたり、入院したりして単価の高い患者を効率よく診た上で病棟で売り上げる、検査で売り上げる。と僕等がいた時は、よく言われていた。外来を70・80人診るということに力を使うのなら、外来の患者を増やすよりはもう少し効率よくお金を稼ぎだせる。検査とかの患者をなるべく受け入れてもらうほうがいい。

(黒木副会長) 内匠先生が言われるように無駄な部分を減らして。

(中村副会長) 阿久根の方からうちにカメラの検査に来る。聞いたら広域に電話かけたら検査に入れないからうちに来た。その割には、全体的な検査の数は、そんなに変わらないくらいである。もう少し効率よく、やっていけば少しは外来の売り上げが伸びるのでないか。数よりも質の高い患者を診る。月に千5百万円の売り上げを伸ばすのであれば、各科せいぜい2百万円・3百万円とかであれば1科1日10万円位となるといけるのではないか。

(黒木副会長) 病院全体での話である。

(中村副会長) 広域だけでどの程度伸ばせるか。千万円位ならいいけるのではないかと前々から広域の運営委員会でも何回か言っている

(黒木副会長) わかりました。結論を求めているのではなくて、先生方の意見を聞いてまた、経営改善委員会があるので、内匠先生から報告を受けて報告します。来年度に向かって、削れるところを削って上げれるところを上げる

(内匠理事) 令和6年度から救急外来でドクターが診て入院させたら手当を5,000円付けていたがそれを無くして、それだけで月の70・80万円かかっていたが4月から失くした。大きな金額ではないが、出来る事はさせて頂いています。また、検討させてもらいます。

(黒木副会長) 出水地区の先生と阿久根地区の先生で補完先として広域が結構役立っているところがある。やってもらっていることも十分わかっているし、内匠先生の時代になってから受入がスムーズである。これからそういうものがわかっているならその金額に合わせて、金額設定してそこに當利目的事業みたいに合わせていくか。そうではなくて準公的な医療機関としてこれ以上もない、これ以下もないと今やつもらっていると思うがそこで赤字幅が出るのであれば補助金対策なりしてやっていかなくてはいけない。それが共同利用施設としての使命ではないかと思う。そこをバックアップしていかなければいけない。会員としては。また、意見を集約して出して貰えればと思います。また機会を設けましょう。取り合えず、目標をどうやってクリアするか。

原案の通り了承。

2. 令和7年度帯状疱疹ワクチン予防接種（定期接種）の接種費用について
別添〔資料5〕参照

出水地区医療問題協議会より別紙の通り、確認依頼がありましたので、ご協議願いたい。B類定期予防接種に該当するため、概ね、3割の自己負担となる見込みである。

提案案で了承。

3. 出水市自立支援医療（育成医療）審査判定医師の推薦について

標記の件、任期満了に伴う推薦依頼が来ておりますので、ご協議願いたい。
なお、現委員は、二宮信幸先生、永松省三先生、倉内宏一郎先生、清水貴士先生の4名
で任期は、令和7年4月1日より令和9年3月31日までの2年間

委託実績は、平成30年度17件（内歯科3件）、令和元年度14件（内歯科4件）、令和2年度11件（内歯科4件）、令和3年度21件（内歯科6件）、令和4年度17件（内歯科4件）、令和5年度19件（内歯科4件）であった。

現委員の4名の先生を推薦することで了承。

4. 第33回北薩5医師会親善ゴルフ大会競技委員の推薦について

毎年恒例の標記大会が、来年度も以下の通り開催が予定されており、大会実行委員には会長に就任、競技委員について各医師会から1名の推薦依頼が来ておりますので、ご協議願いたい。

昨年天候不良で中止となつたため、今回も薩摩郡医師会が担当。

日 時 令和7年4月29日(火・昭和の日)

開会式 午前8時30分

午前9時30分 (OUT・IN同時スタート)

場 所 祇答院ゴルフ俱楽部

競 技 ダブルペリア方式

人 員 10組(40名)

参加費 3,000円 (グリーンフィー・キャディフィーは自己負担)

表彰式並びに懇親会：競技終了後、クラブハウス内で開催する予定。

中村副会長を推薦することで了承。

5. 感染症発生動向調査事業に係る指定届出機関の選定について

標記の件、鹿児島県保健福祉部長より鹿児島県医師会を通じ選定依頼があった。

厚生労働省では、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令に基づき、急性呼呼吸器感染症（ARI）を感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則第1条に規定する5類感染症に追加するとともに、法第14条第2項の規定に基づく定点把握の対象としたところです。

併せて、感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されている小児科定点及び内科定点の設計を見直し、全国で約5,000か所のインフルエンザ/COVID19定点を約3,000か所とする方針が示されております。

鹿児島県では、急性呼吸器感染症サーベイランス実施に向けた準備について、国よりの依頼があったことを踏まえ、県内各保健所並びに各郡市医師会と協議の上、感染症発生動向調査事業に係る指定届出機関の選定を行うとのことです。

出水保健所よりの要望で厚生労働省の方針に則り、現在の指定医療機関内科定点2医療機関と小児科定点3医療機関より内科定点、小児科定点それぞれ1医療機関を選定することとなり、5医療機関に希望を尋ねたところ、内科定点が楠元内科医院、小児科定点がにのみやこどもクリニックより継続の承諾があり、残りの3医療機関より指定取消の希望がありましたので、ご協議願いたい。

了承。

6. 学校腎臓検診について

標記の件、現在、県立学校5校の学校検尿を日置市医師会臨床検査センターと契約し、行っているが、日置市医師会臨床検査センターは、株式会社パソラボに委託して検査を行っている。昨年のインボイスの導入により現在の契約体制が維持できない為、日置市医師会臨床検査センターを通さずに直接契約したい旨、株式会社パソラボより依頼が来ておりますので、ご協議願いたい。

なお、日置市医師会臨床検査センターには、その旨、伝えて同意を得ている。契約内容等について現在と変更なし。

了承。

7. その他

1) 広域医療センター血液内科への鹿大よりの医師派遣について

内匠理事

現在、鹿大よりの血液内科への医師派遣は、広域医療センター1回/週、出水総合医療センター1回/週となっているが、以前よりどちらかに2回/週に変更して手厚い診療をしたい旨、石塚教授よりの話があり、それに伴い、広域医療センターの外来は5月いっぱいまでとなり、6月より出水総合医療センターに2回/週と大学と出水総合との話し合いで決まった。当院血液内科への先生方からの紹介は4月いっぱいまで5月からは、出水総合の方にご紹介いただきたい。治療の長い患者については、出水総合にアクネットをつないで頂いて、当院でのデータを見れるようセッティングをして血液内科の先生方の負担を軽減したい。

2) 出水総合医療センター脳外科について

内匠理事

出水総合医療センター脳外科の瀬戸先生が4月から非常勤になられる。基本的に平日も入院患者を診ないことになる。今、平日夜間と週末は、出水総合のかかりつけの患者も当院に来ているが、今後は、日中も急患や入院になりそうな方は、当院の方にこられる。脳外科の先生方の時間外も80時間にぎりぎりであるが、脳外科の先生方には、ご相談させて頂いて、了承は頂いた。

- (新富理事) 出水総合は、脳外科は、閉鎖されるのか。
 (内匠理事) 外来は続けられる。基本入院は診ない。
 (新富理事) 濱戸先生の後任は、来られないのか。
 (内匠理事) はい。
 (新富理事) 濱戸先生が辞められたら閉められるのか。
 (内匠理事) 濱戸先生がされる間の外来だけである。

3) 市議向けの講演会について

内匠理事

パンフレットがありますので、ご覧ください。総務省のアドバイザーにもなっている城西大学の伊関先生とことで、もし医師会から依頼があれば、公演は受けて頂ける。総務省のアドバイザーなので出水総合医療センターと共に催で行えば、費用は全部総務省持ちになる。もしよければ、考えてもいいのかなと思う。花田先生より椎木市長にそういう話がありますと経過を伝えておきますと言われた。一つの候補としてご提案頂いた。

(黒木副会長) 日医総研の担当部門にお願いして阿久根市の市議には説明を行うので、しばらくペンドィングでお願いします。

令和7年2月12日

(出席された理事・監事全員にご署名・押印いただくことになります。)

会長	印
副会長	印
副会長	印
理事	印
監事	印

次回理事会 … 令和 7 年 3 月 11 日 (火) 19 : 30 ~ 予定